



2011年4月15日 発行

2011年春号

<第15号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-ald.org/union/

『わたしのすきなこと』

なごみのしごとはたのしいです。しごと12ケースやりました。シール、カゴのしごとやりました。おかざきさん、べつびんさん。

パークハイツ101にとまります。さんばつやのにいちやんおとこまえ。もりやまさんとデートいきます。ごはんみそしる、ねぎ、おなべ、おふるあります。ウインナーがおいしいです。

せんとろ、マッサージあります。やまとのゆ、DVD、スケバンデカみます。みなみのようこのせいふくがきたいです。

なべが9かいにあります。うどんすきパーティがやりたいです。ひらいさんとわたしと、ふくおかさんとひさのりさんと、たんきのみんなでやります。

バイビーあいしてるよー

天見 昌代



ワークス匠

〜ひだまりの中で〜

ワークス匠は、平成十四年四月一日に開所され、現在の利用者は、男性七名、女性四名の計十一名です。ワークスユニオンの事業所の中で、最も平均年齢が高い事業所です。作業内容は、ボルト・ナットの組み立て、文房具のバーコード貼り、ひも結びなど、主に怪作業を行っています。開所から九年が経ち、ここで働く利用者さん達の様子も、少しずつ、変化してきています。

ワークス匠は、周辺に小さな商店や企業、学校などがあり、地域の中にとけ込んでいる事業所です。匠の仕事も、すぐ近くの企業数社から受注しています。

また、昔は歯科医院だった二階建の建物をお借りしているのですが、一見、普通の住宅に見えるのではないのでしょうか。こじんまりとしています。さすが、日当たりがよく、ぼかぼか暖かい窓際で作業をすると、思わず夢の中に誘われてしまいます。

◇2年程前、重たいボルトの箱を運ぶ利用者さんが、「腰が痛いわ。」と言いました。それまでは聞かれな

働くのか、利用者のみなきんはどう感じているのか。ふと考えさせられました。

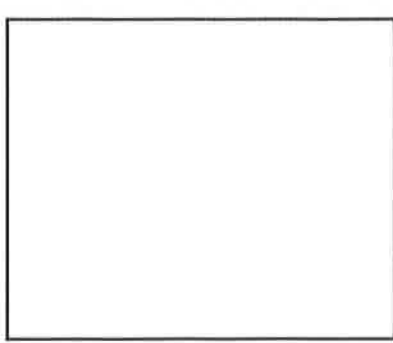
◇ある日の午後、暖かい日差しを浴びながら、作業途中の部材を手に、ウトウトしている人がいました。それを見て職員は、「眠くなる気持ちわかるーでもみんな作業してるしな・・かわいそうやけど、起こすか。」と思っていると、周りの利用者さん達が言いました。

「〇〇さん寝てるわ。ご飯食べた後は眠くなるしなハハハ。」「ほんまやな。疲れてるんちゃうかな。」

居眠りをする利用者さんの傍らで、他の利用者さん達は、穏やかに作業を続けていました。五、六年前なら、「作業中やで、起きやー」と、注意の声飛び交っていたと思います。

もちろん、皆さん作業はきちんと取り組んでいます。ですが、時には誰かの居眠りも笑って流してあげられる、その温かい雰囲気にな

んだかうれしくなりました。



◇数年前から、休憩時間に近所の公園へ数名で散歩に行っています。公園の中をウォーキングする人、竹藪を探検する人、ベンチに腰かけて日向ぼっこをする人、過ごし方はそれぞれです。

また、週に一度、ストレッチや軽い運動を行う時間を設けています。楽しそうに散歩やストレッチに参加する女性利用者さんは、「仕事も頑張らなあかんけど、それだけではしんどいわ。今までずっと働いてきたし。」と笑います。

基本的には作業中心の事業所も、利用者さんのニーズに合わせて、少しずつその形を変えていく必要があります。

るのだと思いました。

◇現在、ワークス匠の平均年齢は五十三歳。年齢と共に、体力や作業ペースなどに少しずつ変化が見られ、その変化に合わせて、作業時間や過ごし方もそれぞれ違ってきています。

最高齢の利用者さんは六十六歳。彼女は午後の作業がはじまると、お昼寝タイムに入ります。それはすっかり周知のことで、その時間になると、他の利用者さんから「寝る時間やで。」「みんな、うるさくしたったら寝られへんで。」と声がかかります。

職員だけでなく、利用者さん同士がそれぞれの状況をお互いに理解し、協力できる中でこそ成り立つことだと思っています。

年齢を重ねても、仲間と共に、その人なりのペースで働き、時にはゆつくり過ごすことができる。そんな場所を、大切にしたいと思います。

(野々村)

『ゆったり』とした

時の流れも

私が小学生の頃、遊びつかれて家に帰ると、いつも縁側で針仕事を一人しているおばあちゃんがいた。おばあちゃんは、ゆつくりとお茶とお菓子を出してくれ、やりかけの仕事に戻る。

お菓子を食べ終えた私は、おばあちゃんの膝枕でよく眠り込んでしまったものだ。たぶんおばあちゃんは、その頃六十代後半で、腰も二重に曲がり、分厚い老眼鏡を掛け、ゆつくりとしか動けなかったが、私は、おばあちゃんのそばで過ごすのが好きだった。声もかけづらいほどせわしく働きまわり、寝るとき以外ほとんど家の中にいない両親に比べて、おばあちゃんの周りだけ『ゆったり』と時が流れ、なんとなく落ち着く自分を感じていた。

ユニオンは壮年期の障害を持つ人の「自分らしく働きたい」との願いに寄り添いながら、「少人数」で「企業の中」で働くことに力を入れてきました。

「働く」ことは、人間にとって重要な活動で、働くことから得られる「充実感」や「達成感」をまだまだ追求したい人もたくさんおられますが、既にその壮年期と言うステージを通り過ぎ、高齢期を迎えた人々も増えて来ています。

福祉の制度上は、障害をお持ちの方にも六十五歳を越えた場合は「障害福祉サービス」より、「介護保険」のサービスが優先されるのですが、各区役所の判断で「障害福祉サービス」の継続利用は可能です。

高度の医療的ケアが必要となった方の場合は、判断に困りますが、ちよつとした介護や見守り介護を必要とする障害を持つ高齢者の場合、「障害福祉サービス」を中心支援を組み立てたほうが、より充実した高齢期を過ごせるのではないかと私は考えています。

まして、ワークスユニオンが目指すのは、「一生涯に亘るトータルな支援」、一人ひとりの五年後、十年後を、そして、人生の終焉の時までを見据えた支援をこれから組み立てなければならぬと考えています。

御見舞
三月十一日に発生した「東日本大震災」。未曾有の巨大地震と大津波で、一瞬のうちにくささんの尊い命が奪われました。なくなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。かろうじて、命は取り留めたものの、家も、家財道具も、車も、総てのものを失われた人もたくさんおられます。総ての被災者の人々に物心両面での支援の手が差し伸べられ、一日も早く復興されることを祈念しております。

高齢期を迎えた人々の支援プログラムとして、何を準備するべきなのか正直なところ悩んでいます。ひとつ確かなことは、「どんな活動をしたいか？」と「どこで活動できるのか？」というところが重要なだろうと考えています。

小さな集団で、和気あいあいと会話も弾ませながら、『ゆったり』と一日いちにちの時間が流れて行く。そこでは、それぞれの利用者が、自分のペースでやりたいことをする。

ワークスユニオン利用者、保護者、職員一同

時に働き、時に体を動かして、時に創作活動をし、時に休憩する。それをみんなが認め合える。そんな場所が必要なのでしょうか。

私たちワークスユニオンらしい「高齢期の日中支援」の在り方について、建物や設備、活動プログラムや職員体制について、保護者の方々の御意見も戴きながら全職員でこの一年間検討を進めて行きたいと考えておりますので、ご助言やご提案をお願いいたします。

(南石)

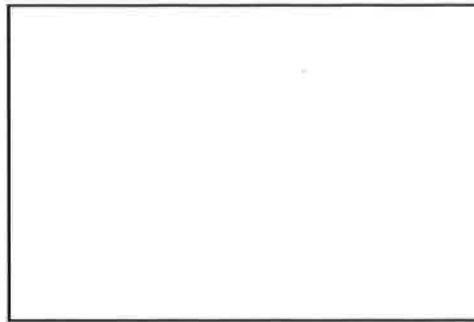
Lクラスの人数が増えました!

第十四号の事業所紹介で紹介した施設外就労「OMC・Lクラス」に今年一月から新しいメンバー5名が加わり、Lクラスは利用者10名と職員2名体制になりました。

増員のきっかけは、新商品の発売。有限会社Lクラスさんが企画されたアルミハンガーやS字フックの注文がとても多く、従来の五名では製作が追いつかない状況になったため、急遽増員が決まりました。アルミワイヤー線の曲げ加工など力が必要な仕事が多いため、今回は男性利用者が選ばれました。

んも張り切って、毎日の作業を行っています。

最終工程の袋詰め、箱詰めを行うと、利用者さんからは「値段はいくらかな?」や「どこで販売されるんやろ?」とワクワクしている光景が広がっています。



職員紹介

横田 賢司 (中)
大学卒業と同時にユニオンに入職して、早六年。初々しかった彼も、今や日中の事業所を束ねる立場に成長しました。

失敗をしても決してへこたれない心の持ち主で、常に前向き、そんな彼の周囲には自然と人が集まります。プライベートではフルマラソン完走や富士山登頂などの偉業を達成。次はどんな挑戦をしてくれるのか楽しみにしています。

伊東 奈緒子 (右)

障害のある人と関わる仕事をしたいという思いで、

保育職からこの世界に飛び込みました。ユニオンに来て二年の彼女ですが、どつしりとベテラン顔負けの落ち着きがあり、とても頼れる存在です。

プライベートでは昨年結婚したばかりで幸せいっぱい。普段は流行に敏感で、最新の携帯電話スマートフォンを使いこなす今どきの若者です。

岡村 和子 (左)

ユニオンに来てまだ半年ですが、今までに得た様々な経験を活かした支援で多くの利用者と信頼関係を築いています。利用者だけでなく職員に対しても、一瞬で体の不調を見抜きマッサージやアドバイスをしてくれたり、悩み相談に乗ってくれたりとまさに「ユニオンの母」的存在です。

一見クールな印象の彼女ですが、事業所で愛用のコップはガチャピンというお茶目な一面も持っています。

編集後記

▼最近、何名かの利用者の様子が変化してきています。物忘れがひどくなり、部屋に閉じこもりがちになったAさん。無気力に壁に向かって独り言をつぶやくBさん。心臓に負担がかかる為、医者に仕事や外出や食事の制限をかけられたCさん。どの方の場合も、ひたひたと迫る「老い」が、少なからず関係していると思われまます。▼これまで、ワークスユニオンの日中支援は、「働く」ことにこだわって展開してきました。しばらくは、その支援方法が大きく変わることはないでしょう。しかし、確実に変化している利用者に向けた支援も必要となっています。▼「働く」ことに誇りと自尊心を持つ利用者の方に対し、働くこと以外にも、生きがいや喜びを感じられるものを探していかなければなりません。大きな課題にぶつかっています。

(S)